

「シラバス」 作成の要領 2020 年度

来年度開講予定の授業について、内容と計画を学生にわかりやすく示し、**学内のポータルサイト上に掲載**いたします。（冊子は作成しません）

つきましては、先生のご担当科目について、次の要領で作成していただきますようお願い申し上げます。

《作成方法》

「教員ポータルサイト」から入力

全ての項目について記載をお願いいたします

【見本】

授業内容の部分

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

授業計画の部分

週	テーマ (2 行まで)	授業計画 (2 行まで)	単位数
1	免疫系の概観	免疫系の概念：自然免疫と獲得免疫 免疫系細胞、リンパ組織	50
2	自然免疫	自然免疫に関する細胞、自然免疫における病原体認識・TLR	49
3	獲得免疫：抗原の提示と提示	細胞認識（免疫系細胞、リンパ組織の細胞と細胞、自然免疫） 抗原提示細胞、MHC分子、抗原タンパク質のアリセシング	21.5
4	獲得免疫：抗原の認識	B細胞：BCR、抗体 T細胞：TCR	58
5	獲得免疫：細胞性免疫	T細胞の活性化に必要な分子群（抗原提示、TCR結合、共刺激分子、誘導分子） T細胞のエフェクター機能	27
6	獲得免疫：液性免疫	細胞認識2（細胞性免疫） B細胞活性化、T細胞との相互作用、抗体の機能	44.5
7	獲得免疫：液性免疫	抗体形成、抗体活性化	66
8	細胞免疫と液性免疫、免疫応答	細胞免疫と液性免疫、免疫応答	64
9	免疫学的検査が有効な疾患1	細胞認識3（液性免疫） 感染症と免疫学的検査—細胞	54.5
10	免疫学的検査が有効な疾患2	感染症と免疫学的検査—ウイルス	63
11	免疫学的検査が有効な疾患3	感染症と免疫学的検査—真菌、寄生虫	61
12	免疫学的検査が有効な疾患4	腫瘍免疫と免疫学的検査 アレルギーと免疫学的検査	55
13	免疫学的検査が有効な疾患5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
14	免疫学的検査が有効な疾患6	免疫不安と免疫学的検査 免疫学的検査が有効な疾患 まとめ	51
15	まとめ	細胞認識4（免疫学的検査が有効な疾患） 免疫系総論	53.5

【入力方法】

①科目の情報

学科・授業科目の区分・ID 番号・科目名・授業方法・単位数・選択区分・開講年次・開講学期 → **既に入力済**（変更不可）

科目の情報					
科目名	免疫学				
担当者氏名	●●●●				
開講年次	2020 年度	学科・専攻・コース	臨床検査・臨床検査	学年・学期	1年・後期
授業方法	講義	必修・選択	必修	単位	1 単位

②ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力

- ・該当する項目を選択し、
ドロップダウンリスト（赤枠の▼）で、
◎か○を選択する
- ・最大 **5 項目**まで選択が可能
- ・選択した項目のみシラバスに自動的に表示される

表示例

③授業の概要（196 文字以内）

授業の目的の説明を入れる

- ・この授業を設けている「理由」を学生が理解できる内容にする

「～が理解できるようになるために、～について学ぶ」というような表現にすると目的を理解させやすい。

- ・「学生便覧」P11～18 に記載されている「カリキュラムポリシー」と関連させた内容にする
- ・内容を簡潔にまとめること
- ・学生にとってわかりやすい表現で作成すること
- ・実務家教員の場合は、授業内容が実務経験に基づく内容になっていること

入力例

④授業の到達目標（196 文字以内）

・「ディプロマポリシー」に沿って、到達目標を具体的に示す

・ 学生を主語にし、簡潔に箇条書きにする。

「～できる。」「～を理解している。」

など

・ 抽象的な表現はさける。

・ 目標が多くならないようにする。

入力例

授業の到達目標（7 行まで）	
	90
①自然免疫による感染防御機構を説明できる。 ②自然免疫から獲得免疫への移行を説明できる。 ③獲得免疫における免疫応答と免疫反応を説明できる。 ④免疫学的検査が有効な疾患について免疫応答と免疫反応に関連付けて説明できる。	

★ループリック評価を採用する場合は、⑤《成績評価の方法》に追加で記載してください。
また、この評価法が可能な科目は、できるだけ取り入れてください。

⑤成績評価の方法（140 文字以内）

- 「学修成果」と関連付けた「到達目標」の項目が、達成できているか評価する。

評価方法の方法

- あいまいな評価法は用いない。
- たった1回の試験で評価しない。

（「筆記試験 100%」は不可 ※注1を参照）

- 数値で比較できない情緒的判断による評価はしない。
- 確認試験（小テスト）、時間外学修のための課題、中間試験、期末試験などで、総合的に科目の学修成果を査定する。
- 数値化された公平な評価であること
- 「出席」は評価対象に入れないこと
- 「平常点」を評価対象とする場合は必ずその内訳を記載すること

入力例 1

成績評価の方法（5行まで）	
	41
①平常点 50%（小テスト30%，AL10%，学修ノート10%） AL：アクティブラーニング ループリックで評価します。	
②期末試験 50% 《試験のフィードバック方法》 期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分	

入力例 2

成績評価の方法（5行まで）	
	65
①レポート（70%） ②平常点（学習態度（15%）及び講義中の提出物（15%）） 《課題へのフィードバックの方法》 提出物ならびにレポートについて講評の時間を設ける。	

記載例 1

小テスト 20%、中間試験 30%、
期末試験 40%、アクティブラーニング
（ループリック評価）10%

記載例 2

中間試験 30%、期末試験 60%、平常点
（小テスト・発表など）10%

記載例 3

レポート 30%、期末試験 50%、および
平常点（実習態度、毎回の作品提出状況
等）20%の割合で総合評価する。
上記4項目のうち、いずれかが基準に満
たない場合、単位は認定されない。

・評価について学生への

《フィードバックの方法》を記載する

記載例 1

期末試験後に解説を行う。(試験 60 分・
解説 30 分)

記載例 3

レポート(提出物)について講評の時間
を設ける。

記載例 2

期末試験(90 分)実施翌週に解説(30 分
程度)を行う。

記載例 4

小テスト: 試験後に解説(10 分)
期末試験: 試験(60 分)後に解説(30 分)

※注 1

期末のペーパーテストだけで評価を行うのではなく、ペーパーテストに加えて、**質問・発言
内容・受講態度・レポート**などを**組み合わせた評価方法**が必要となります。

また、「**③授業の到達目標**」に対する**達成度**も成績評価の重要な項目となりますので、段階的に到達度を測り、**毎回の講義の積算**が成績評価に反映されるような方法を設定してください。

これには、**複数回の確認テスト(小テスト)**を行うことが有効な方策の1つとされています。

⑥テキスト(84 文字以内)

- ・自主学修ができるよう、テキスト、
資料は必要
- ・授業で毎回使用するテキスト(学生に
必ず購入させるもの)を記載する。
- ・書名は下記の**順番と様式**で記載する。

著者名「テキスト名」(出版社名)

- ・資料として、授業でプリントを配布す
る場合は、その旨を記載する。

入力例

テキスト(3行まで)	
窪田哲朗他 臨床検査学講座「免疫検査学」医歯薬出版 配布資料: 授業内容と事後学修のための問題を記載している。	31

⑦参考図書(168 文字以内)

- ・学生に**購入させないもの**
- ・授業で直接使用しないもの
- ・持っている则在学中・卒業後も非常に
役に立つものを挙げる。
- ・書名は下記の**順番と様式**で記載する。

著者名「テキスト名」(出版社名)

入力例

参考図書(6行まで)	
「病気が見える⑥免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA その他適宜紹介します。	132.5

⑧授業時間外学修（168 文字以内）

事前学修と事後学修に分けて記載する。

- ・ **事前学修** この学修を踏まえて授業が進められるような内容を具体的に示す
- ・ **事後学修** 復習することを具体的に示す
- ・ およその**所要時間**を列記する

記載例 1

事前学修

- ・ 授業計画に記載した語句(キーワード)の意味を調べノートに書いてくる。
(20 分程度)
- ・ 必ず事前にテキストに目を通しておくこと。(20 分程度)
- ・ テーマを与えて、授業前に調べてもらうこともある。(30～40 分程度)

など

入力例

授業時間外学修（6 行まで）	
22	学修ノート（A4）を準備し、事前事後学修の内容を記す。 事前学修（20分）：次回の授業範囲を読み、授業計画の学習内容欄に示した語句について簡単な説明をノートに書く。 事後学修（60分）：教科書とプリントを参考に、復習問題を解き、最後に授業の要点を記す。 授業中にディスカッション、グループワークを行う。

事後学修

- ・ 教科書と配布プリントを参考にしながら、復習問題を解く。(60 分程度)
- ・ 毎回行う小テストの復習 (20 分程度)
- ・ 過去問題に取り組み、間違った問題を復習する。(10 分程度)

など

⑨備考（84 文字以内）

- ・ 授業時間外学修をする上でのアドバイスなど必要な情報をご記入ください。

記載例

- ・ PC の基本的な使い方を学習すること。
- ・ 内容が多岐に亘るため、ノート整理が重要になる。
- ・ 日々の社会的出来事に関心を抱くこと。そのために、新聞・TV ニュースに毎日接する必要がある。
- ・ **実務家教員による授業**の場合は、「実務家教員による授業」と記載する

など

入力例

備考（3 行まで）	
12	前回授業内容の小テストと、授業終了時のショートレポートで授業時間外学習の状況、授業内容の理解について確認する。ノートは期末試験終了後に提出する。 実務家教員による授業

実務家教員の場合は、
実務家教員による授業とご記入ください。

★アクティブラーニングの手法で授業を行う場合は、⑩授業計画で、実施する学習内容の欄や⑨備考に記載してください。

⑩授業計画

テーマ（各回 2 行×11 文字以内）

学習内容（各回 2 行×39 文字以内）

「期末試験」は入力しない

テーマ・学習内容

「学習内容」は、「事前学修」しやすいようにできるだけ詳しく、具体的に示す。

★アクティブラーニングの手法で授業を行う場合は、その手法名を記載する

《アクティブラーニングの手法》

P B 1 (問題解決型学習)、反転授業、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク など

★ICTを活用した情報分析等の要素を含む授業とは『授業全体を通じてIT技術を活用する授業内容であること』

- ・IT技術を有効活用することで、情報を伝達・交換するのに着眼点を置いている
- ・IT技術を学習する授業がベースになっている

授業計画			
講	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)	
1	免疫系の概説	免疫系の概説、免疫系細胞：リンパ球 (T, B, NK)、顆粒球、樹状細胞、マクロファージ、樹状細胞、肥満細胞	30
2	免疫系の概説	中枢リンパ臓器、末梢リンパ臓器：骨髄、胸腺、脾臓、リンパ管とリンパ節、MALT	41
3	自然免疫	自然免疫における病原菌認識の機序、自然免疫の構成要素と機序：パターン認識、Toll-like receptors, アポトーシス	24.5
4	獲得免疫系への抗原提示	APCによる抗原の取り込み、MHC分子、抗原の加工と提示：MHCクラスII分子、MHCクラスIII分子、抗原提示、抗原性	22.5
5	獲得免疫における抗原の認識	B細胞の抗原認識、抗原の機序、抗原の機序と機序、T細胞の抗原認識：抗原提示、抗原提示、抗原提示、抗原提示	9
6	T細胞の活性化機序と役割	T細胞の活性化に必要な分子群：TCR結合、抗原提示、抗原提示、抗原提示	39.5
7	抗原の産生機序と役割	B細胞とT細胞の相互作用、抗原産生、抗原の機序：リンパ球、抗原提示、抗原提示、抗原提示	29.5
8	補体系の役割	補体系の3つの経路：各経路の活性化：経路、経路、経路、経路	30.5
9	まとめ1	到達目標の① AL: 第1回～第8回までの内容をプレゼンテーションする。	44
10	細胞免疫と自然免疫、自己免疫	細胞免疫、自然免疫、自己免疫：ワクチン、抗体、免疫グロブリン、免疫、positive/negative	25.5
11	免疫学的検査が有用な疾患	細菌感染症、ウイルス感染症：エントロキシン、異型肺炎、異型肺炎、血球凝集反応	39
12	免疫学的検査が有用な疾患	ウイルス感染症、真菌感染症、寄生虫感染症：ウイルス性肝炎、インフルエンザ、ヘルペス、ヘルペス	24.5
13	免疫学的検査が有用な疾患	腫瘍性疾患、アレルギー：腫瘍マーカー、MALT、アレルギー	44
14	免疫学的検査が有用な疾患	自己免疫疾患、免疫不全症：自己免疫疾患、免疫不全症、免疫不全症、免疫不全症	26
15	まとめ2	到達目標の AL: 第10回～第14回までの内容をプレゼンテーションする。	45

記載例

(実施する日の学習内容の欄や備考に記載してください。)

- ・グループ別に課題についてディスカッションしてまとめる
- ・研究発表会は、パワーポイントを用いてプレゼンテーションする

例

- ・Webでバラバラの情報を集めて〇〇サイトを作る。
- ・廿日市の産業情報や観光地情報を収集し、山女視点のサイトを立ち上げHPにアップする など

《授業回数が **15 回未満** の場合》

入力例 1

文字が入力されていない全ての「テーマ」と「学習内容」の枠に、スペースキーで「空白」を1文字以上入力する

入力例 1 《15 回未満》

授業計画		
週	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)
1	1 採血 20	血清分離法、血清保存法 67
2	2 凝集反応 18	ボールバインネン反応、梅毒検査 64
3	3 溶菌反応 18	CH50 76
4	4 電気泳動法 17	免疫電気泳動法 71
5	5 非標識抗原抗体反応 13	免疫比濁法 73
6	6 標識抗原抗体反応 14	放射免疫測定法 71
7	7 標識抗原抗体反応 14	蛍光抗体法 73
8	8 標識抗原抗体反応 14	免疫金標識法、免疫沈降法、免疫電泳法 68
9	9 21	～ 以下の枠には1文字ずつ空白が入っている ～
10	10	
11	11	
12	12	
13	13	
14	14	
15	15	

注意; 15 回未満の場合は、文字が1文字も入力されていない枠があると登録できないため、全ての枠に必ずスペースキーで「空白」を1文字以上入力してください。

《授業回数が **16～30 回** の場合》

入力例 2

1 つの枠を 上下に分けて、2 回分 の授業のテーマと内容の入力を行う

入力例 2 《16～30 回》

授業計画		
週	テーマ (2 行まで)	学習内容 (2 行まで)
1	1 免疫系のしくみ① 2 免疫系のしくみ② 4	免疫の概要 自然免疫と獲得免疫 64
2	3 免疫系のしくみ③ 4 免疫系のしくみ④ 4	異種免疫 細胞性免疫、受動・能動免疫、免疫寛容 56
3	5 免疫学的検査① 6 免疫学的検査② 6	抗原抗体反応、検査法 感染症と検査 62
4	7 免疫学的検査③ 8 免疫学的検査④ 6	アレルギー、腫瘍と検査 自己免疫、免疫不全と検査 55
5	9 輸血・移植検査① 10 輸血・移植検査② 3.5	ABO式血型、Rh式血型 血液製剤、輸血副作用 56.5

【登録(仮)方法】

	得点	9.5	アレルギーと免疫学的検査	99
13	免疫学的検査が有効な疾患4	9.5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
14	免疫学的検査が有効な疾患5	9.5	免疫不全と免疫学的検査 免疫学的検査が有効な疾患 まとめ	51
15	まとめ	19	確認試験4（免疫学的検査が有効な疾患） 国家試験問題	53.5

☐ 確定する（確定後は編集が出来なくなりますのでご注意ください）

A  

仮登録…入力後 **A** をクリック（訂正・修正の必要があるため）

※ この時点では「確定」しないでください

チェック後、修正をお願いすることがあります。確定の時期は後日お知らせいたします。

※ご注意！ 1文字も入ってない枠があると、登録できません

【完成見本】

《専門教育科目 専門基礎》					
科目名					
担当者氏名					
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎	1-66 (知識と理解)臨床検査技師に必要な医学的知識を身に付け、臨床検査データの重要性を理解している。			
	◎	3-70 (態度と志向性)グループ学習の場で自分の役割を認識し、チームで協力して結果を導くことができる。			
《授業の概要》			《テキスト》		
自然界において、自己と非自己の識別は厳密におこなわれ、それぞれの種の遺伝的な特性が維持されている。非自己のものを排除するしくみは免疫反応といわれ、感染防御、移植片拒絶反応など身近でもみられる生体の反応である。このような生体内免疫反応について学び、種々の疾患における免疫学的検査の意義について理解する。			窪田哲朗他 臨床検査学講座「免疫検査学」医歯薬出版 配布資料：授業内容と事後学修のための問題を記載している。		
《授業の到達目標》			《参考図書》		
①自然免疫による感染防御機構を説明できる。 ②自然免疫から獲得免疫への移行を説明できる。 ③獲得免疫における免疫応答・免疫反応を説明できる。 ④免疫学的検査が有効な疾患について免疫応答・免疫反応に関連付けて説明できる。			「病気が見える◎免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA その他適宜紹介します。		
《成績評価の方法》			《授業時間外学修》		
①平常点 50% (小テスト・AL 30%, 課題 10%, 学修ノート10%) ②期末試験 50% 《試験のフィードバック方法》 期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分			学修ノート (A4) を準備し、事前事後学修の内容を記す。 事前学修 (20分)：前日に次回の授業範囲を読み、授業計画の学習内容欄に示した語句について意味を確認しておく。 事後学修 (60分)：教科書とプリントを参考に、復習問題を解く。その後、教科書を通して読み、全体の内容を理解する。		
《試験のフィードバック方法》 期末試験終了後に解説する。試験60分・解説30分			《備考》		
			前回の授業内容の小テストと、授業終了時のショートレポートで授業時間外学修の状況、授業の理解について確認する。ノートは期末試験終了後に提出する。冬休みに課題を出す。		
《授業計画》					
週	テーマ	学習内容			
1	免疫系の構成要素	免疫系の概念、免疫担当細胞： リンパ球(T, B, NK), 顆粒球, 単球・マクロファージ, 樹状細胞, 肥満細胞			
2	免疫系の構成要素	中枢リンパ組織, 末梢リンパ組織： 骨髄, 胸腺, 脾臓, リンパ管とリンパ節, MALT			
3	自然免疫	自然免疫における病原体認識の特徴, 自然免疫の構成要素と機能： パターン認識, Toll-like receptors, アポトーシス			
4	獲得免疫：抗原提示	APCによる抗原の取り込み, MHC分子, 抗原のプロセッシング： MHCクラスⅠ分子, MHCクラスⅡ分子, 外来性抗原, 内在性抗原			
5	獲得免疫：抗原の認識	B細胞の抗原認識, 抗体の種類, 抗体の構造と機能, T細胞の抗原認識： 抗体H鎖・L鎖の可変部遺伝子の再構成, アイソタイプ, アロタイプ, イディオタイプ			
6	獲得免疫：T細胞の活性化機構と役割	T細胞の活性化に必要な分子群： TCR複合体, 共受容体, 共刺激分子, エフェクター機構			
7	獲得免疫：抗体の産生機構と役割	B細胞とT細胞の相互作用, 抗体産生, 抗体の機能： リンパ濾胞, H鎖定常部遺伝子の再構成, クラススイッチ			
8	獲得免疫, 自然免疫における補体系の役割	補体系の3つの経路, 各経路の活性化： 別経路, レクチン経路, 古典経路, アナフィラトキシン, 補体調節因子			
9	能動免疫と受動免疫, 自己寛容	能動免疫, 受動免疫, 自己寛容： ワクチン, 免疫グロブリン製剤, 母乳免疫, 自己寛容の成立			
10	免疫学的検査が有効な疾患	細菌感染症, ウイルス感染症： エンドトキシン, 異型肺炎, 異好抗体, 血球凝集症候群			
11	免疫学的検査が有効な疾患	ウイルス感染症, 真菌感染症, 寄生虫感染症： ウイルス性肝炎, インフルエンザ H・N, オセルタミフル, β -Dグルカン			
12	免疫学的検査が有効な疾患	腫瘍性疾患, アレルギー： 腫瘍マーカー, Mタンパク, Ⅰ～Ⅳ型アレルギー			
13	免疫学的検査が有効な疾患	自己免疫疾患, 免疫不全症： 組織特異的/全身性自己免疫疾患, B細胞・T細胞・複合型・食細胞の障害, 補体欠損症			
14	免疫学的検査が有効な疾患	AL：第11～14回までの疾患について免疫学的に考察する。グループディスカッション			
15	免疫学的検査が有効な疾患	AL：第14回でまとめた内容をプレゼンテーションする。 AL評価：ルーブリック			

【全内容を別のシラバスに複写する方法】

I 次年度用に作成したシラバスを他のシラバスに複写する場合

既に入力済みの次年度のご自身のシラバスから編集最中のシラバスに、内容を丸ごとコピーする機能があります。(同じ科目を複数入力する時に便利です)

※下の**赤枠**の「シラバスの複写」をクリックする

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

教員 ●●●●でログイン中 ログアウト

トップ シラバス検索 シラバス登録

シラバス登録 > 編集

科目の情報					
科目名	先産学				
担当者氏名	●●●●				
開校年度	2020 年度	学科・専攻・コース	臨床検査・臨床検査	学年・学期	1年・後期
授業方法	講義	必修・選択	必修	単位	1 単位

シラバスの複写 シラバスの印刷

シラバスの情報

II 前年度以前に作成したシラバスを複写する場合

ご自身が入力された前年度のシラバスの内容を、編集集中のシラバスに丸ごとコピーする機能があります。(内容が前年度とあまり変わらない場合に便利です)

1. 「シラバス」→「シラバス検索」に進み、該当箇所にはチェックまたは文字を入力し「検索」をクリックする。

- この中から
項目を選んで検索する
2つ程度
- | | |
|---------|-------------------------|
| ① 開設年度 | 2020 年度・2019 年度ともに☑を入れる |
| ② 開設学期 | 該当学期に☑を入れる |
| ③ 学科・専攻 | 該当する学科コース略名（短い方）に☑を入れる |
| ④ 開設学年 | 該当学年に☑を入れる |
| ⑤ 担当教員 | 苗字のみか名前のみを入力する |
| ⑥ 授業科目名 | 対象科目名を入力する |

「検索条件」を全て入力すると**検索できません**

※ 条件を **少なく設定するほど** 検索しやすくなります。

2. 表示された前年度のシラバスの欄の「複写」をクリックする。

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

教員 ●●●●でログイン中 ログアウト

トップ シラバス検索 シラバス登録

シラバス検索

シラバスの表示条件

開設年度 ☒ 2020 年度 ☒ 2019 年度 ☐ 2018 年度 ☐ 2017 年度

開設学期 ☐ 前期 ☒ 後期 ☐ 通年

学科・専攻

- ☐ 食物栄養学科 (栄養管理)
- ☐ 食物栄養学科 (フードビジネス)
- ☐ 臨床検査学科 (臨床検査)
- ☐ 人間(医情)
- ☐ 人間(心理)
- ☐ 専攻(診療)
- ☐ 人間生活学科 (医療事務)
- ☐ 人間生活学科
- ☐ 人間生活学科 (ライフデザイン)
- ☐ 人間(オフィス)
- ☐ 食物(フード)
- ☐ 食物栄養学科
- ☐ 食物栄養学科 (栄養調理)
- ☐ 人間(医療)
- ☐ 食物(栄養)
- ☐ 食物 (食品)
- ☐ 人間生活学科 (人間関係)
- ☐ 臨床検査学科
- ☐ 人間(人間)
- ☐ 食物(栄養)
- ☒ 臨床(臨床)

開設学年 ☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 3年

担当教員 (部分一致) ●● 授業科目名 (部分一致) ▲▲学

検索 クリア

全て選択 全て解除 選択したシラバスを印刷

シラバスの検索結果

	年度	科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	編集状態	操作
	2020 年度	▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	未入力	新規
☐	2019 年度	▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	確定	閲覧 複写

3. 次年度担当科目の一覧が表示されるので、対象科目の「複写」をクリックする。

教職員ポータルサイト

ホーム ポートフォリオ 学生情報 シラバス 授業情報 SNS お知らせ スケジュール 設定

教員 ●●●●でログイン中 ログアウト

トップ シラバス検索 シラバス登録

▲▲学の複写先を選択します キャンセル

編集中のシラバス一覧

科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	操作
▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	複写
○○○○Ⅱ	臨床検査	2年	後期	●●●●	複写
◎◎◎◎◎演習	臨床検査・臨床検査	3年	後期	●●●●	複写

未入力のシラバス一覧

科目名	学科・専攻・コース	学年	学期	担当者氏名	操作
▲▲学	臨床検査・臨床検査	1年	後期	●●●●	複写
○○○○Ⅱ	臨床検査	2年	後期	●●●●	複写
◎◎◎◎◎演習	臨床検査・臨床検査	3年	後期	●●●●	複写

4. 複写された内容を確認・修正後、登録する。

4	獲得免疫：抗原の捕捉と提示 9	抗原提示細胞、MHC、抗原のプロセッシング	57.5
5	獲得免疫：抗原の認識 12	T CR, B CR	71
6	獲得免疫：細胞性免疫 12	T細胞	75
7	獲得免疫：液性免疫 13	B細胞、免疫グロブリン	67
8	獲得免疫：液性免疫 13	補体成分、補体活性化経路	66
9	能動免疫と受動免疫、免疫寛容 8	能動免疫と受動免疫、免疫寛容の成立	61
10	まとめ：自然免疫と獲得免疫 9	中間試験：自然免疫と獲得免疫	64
11	免疫学的検査が有効な疾患1 9.5	感染症と免疫学的検査	68
12	免疫学的検査が有効な疾患2 9.5	腫瘍免疫と免疫学的検査	67
13	免疫学的検査が有効な疾患3 9.5	アレルギーと免疫学的検査	66
14	免疫学的検査が有効な疾患4 9.5	自己免疫疾患と免疫学的検査	65
15	免疫学的検査が有効な疾患5 9.5	免疫不全と免疫学的検査、まとめ	63

☐ 確定する（確定後は編集が出来なくなりますのでご注意ください）

チェックしない！

※ この時点では「確定」しないでください

チェック、修正が済んでから「確定」の時期をお知らせいたします。

【科目検索のコツ】

探している科目が検索できない場合は、検索条件を 2つ程度に 減らすとヒットしやすくなります。